

神奈川大学

〒221-8624 神奈川県横浜市神奈川区六角橋3-26-1
入試センター TEL 045-481-5857
www.kanagawa-u.ac.jp

大学HP

神奈川大学

Kanagawa University



横浜キャンパス

創立100周年に向け教学改革を推進 国際都市YOKOHAMAを舞台に、 学生を最も成長させる総合大学



とどろきゆうすけ
戸田龍介学長

1992年九州大学大学院経済学研究科経営学専攻博士課程単位取得満期退学。博士(経済学)。2006年4月神奈川大学教授。経済学部部長、副学長を経て25年4月より現職。

SUMMARY

1928年の創立以来、国際都市・横浜に根ざし、「教育は人を造るにあり」という創立者・米田吉盛の理念を受け継ぎ、日本屈指の総合大学へと発展を遂げた神奈川大学。学生一人ひとりの可能性を最大限に引き出すため、「成長支援第一主義」を掲げ、充実した学修支援を展開しています。

世界水準の研究や地域・企業との連携プロジェクトにも学生が主体的に参加できる機会を設け、実践力を養う教学環境を整備していることも大きな魅力です。さらに、国家資格を持つ就職アドバイザーによる手厚い支援と神奈川県内にとどまらない豊富なネットワークを生かし、一人ひとりの希望進路を後押し。創立100周年に向け、横浜から世界へ羽ばたく人材を送り出しています。

01 創立100周年へ向かう 横浜発の総合大学

港以来、国際都市として歴史を刻んできた横浜の地に、1928年に創設された神奈川大学。創立者・米田吉盛の「教育は人を造るにあり」という理念のもと、人文・社会科学から自然科学までを網羅する文理11学部、約1万9000人の学生が学ぶ、わが国有数の総合大学へと発展してきました。2028年には創立100周年の節目を迎えます。その歩みの根底にあるのは、「成長しようとする若者の背中を全力で押す」「成長支援第一主義」です」と、戸田龍介学長は語ります。2021年には、グローバルな環境で学ぶ都市型・未来型キャンパスとして、みなとみらいキャンパスを開設。経営・外国語・国際日本の3学部を集約し、人文・社会科学系3学部と理工系5学部が集結した横浜キャンパスとともに教学改革に取り組んでいます。

「本学の特徴は、伸びしろのある学生が多く、親しみやすい校風にあります。教育面では、入学・学修・就職の三位一体改革を進め、それぞれを受験生・在学生・就職活動中の学生の視点から捉え直すことで、これまでにない支援体制の実現を目指しています」(戸田学長)

02 少人数教育で 主体的に学ぶ力を育成

高度化、複雑化する時代に求められるのは、社会の変化に柔軟に対応し、自ら課題を発見・解決できる人材です。その基盤を築くため、神奈川大学では「共通教養科目」と「専門科目」をバランスよく配置した教育を展開しています。共通教養教育では、人文・社会・自然など幅広い分野を学び、多様

生み出していることも本学の大きな強みです。「学生の成長を支えるのは教育ですが、その教育を支えているのは研究です。教育と研究が相互に高め合う循環にこそ、大学の存在意義があります。来年にも戦略的に研究を推進する組織を立ち上げ、社会課題の解決に資する研究を強力にバックアップするとともに、本学独自の研究ブランドの確立を目指します」(戸田学長)

こうした環境のもと、学生の挑戦も注目されています。その代表例が、2008年に始動した工学部の「宇宙エレベータープロジェクト」です。宇宙エレベーターは、地上と人工衛星をケーブルで結び、その上をクライマー(昇降実験機)が移動する未来の宇宙輸送システムです。学生たちはその実現を目指して研究開発に取り組み、2022年にはクライマーの走行実験で世界最速となる時速100kmを達成しました。

研究成果を社会に還元する取り組みもまた、大学の重要な使命の一つです。2020年には、神奈川県県民住宅供給公社と連携・協力に関する協定を締結しました。これを機にサッカークラブの学生たちが「竹山団地プロジェクト」を立ち上げ、周辺地域の活性化や地域コミュニティの課題解決に繋がる活動を展開しています。また、人間科学部や建築学部も竹山団地を舞台に、高齢者の心身の健康や人生100年時代における住まいのあり方について研究を行っています。

みなとみらいキャンパス所属の経営・外国語・国際日本の3学部では、グローバル企業や官公庁、美術館に劇場などの文化的施設も多く存在する恵まれた環境を活かし、企業や施設と連携した研究やフィールドワークを実施。自治体、企業、学校、地域住民の方々との連携の相談窓口である社会連携センターを中心に、「食」や「観光」を切り口とした地域振興やアントレプレナリシップ教育など、社会と協働しながら実践的に学ぶ機会

な視点や柔軟な思考力を養います。専門教育では、一人ひとりの興味や強みに応じて知識や技能を深め、創造的な課題解決力を培います。

デジタル化が急速に発展する中、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」の認定を受けた「共通教養データサイエンスプログラム」を開設。リテラシーレベルと応用基礎レベルの2段階で構成され、ビッグデータや生成AIへの理解を深めながら、データを読み解き、新たな価値を創造する力を養成しています。学修サポートも本学の大きな特色です。1年次には少人数制の「FYS(ファースト・イヤーク・セミナー)」で、大学での学び方やレポート作成などの基礎を修得。その後はゼミナールや専門研究へと段階的に学びを深めます。文系ではフィールドワーク、理工系では実験・実習や卒業研究などを通じて実践力を磨き、主体的に学ぶ姿勢を育みます。

さらに、「学習相談」では学習方法やレポート作成などについて個別にアドバイスを受けられるほか、「なんでも相談コーナー」では学生生活全般の相談にも対応しています。戸田学長は、「学修成果の可視化も大きな課題です。学生が将来目指す姿を実現するために、どのような授業を履修すればよいかを示すアプリの実装に向け、議論を重ねています」と話します。

03 世界水準の研究を展開、 社会課題の解決にも挑む

2025年に発表されたスタンフォード大学とエルゼビア社による「世界で最も影響力のある研究者トップ2%」には、本学から12名が選出されました。新たな機能的有機化合物の開発や、ビッグデータを活用したAIによる複雑現象の数理モデリングなど、世界水準の研究成果を幅広い分野で

04 手厚い就職支援で 学生が希望する進路を実現

生一人ひとりに寄り添ったキャリア・就職支援も神奈川大学の強みです。就職アドバイザーは全員が国家資格「キャリアコンサルタント」を保有し、進路相談から企業選び、応募書類の作成、面接対策まできめ細かくサポートしています。また、就職活動を経験した4年生による「学生キャリアサポーター」が、学生目線で実践的なアドバイスをを行っています。年間200回以上開催される就職講座では、業界・職種別セミナーをはじめエアライン対策、公務員講座、履歴書・面接対策など、多彩なプログラムを実施。約26万人に及ぶ卒業生のネットワークも活用し、自分らしい進路を実現できるよう力強く後押ししています。

「昨年、入試改革を行った本学は30年ぶりに総志願者数が4万人を超えました。一方で、90年以上の伝統がある給費生試験は、横浜で働く勤労青年の学びの場として創設された本学らしい制度です。私は本学を地域密着型大学だと捉えています。その意味は二つあります。一つは横浜という地域とともに歩む大学であること。もう一つは、全国から集まった学生が本学で学び、地域や世界へ羽ばたいた後、社会の発展に貢献していくことです。ぜひ、横浜を街ごとキャンパスに、グローバルな視点で学び、地域や社会に貢献できる人材へと成長してください」と、戸田学長はメッセージを送っています。



みなとみらいキャンパス

■キャンパスで磨く国際感覚

神奈川大学には、留学生やネイティブ・スピーカー講師との交流、語学学習サポートなどを通じ、生きた語学を学び、国際感覚や語学力を磨く機会が多数!

●「Language Express」

英語、スペイン語、中国語を学べる多言語学修スペース。留学準備や認定資格対策など、目的に合わせてネイティブ・スピーカーがレッスンを行う。

●「Buddy制度」

外国人留学生の履修登録や学修補助、生活支援などをボランティアとして行う制度。

●SIPS(留学・国際交流アンバサダー)

学内の留学・国際交流を推進するため、学生と職員が一体となって活動。

